

南アフリカ共和国

Republic of South Africa

	2008年	2009年	2010年
①人口:4,999万人 (2010年央, 推計値)			
②面積:121万9,090k㎡			
③1人当たりGDP:7,158米ドル (2010年)			
④実質GDP成長率(%)	3.6	△1.7	2.8
⑤貿易収支(ランド)	△355億5,900万	22億7,100万	281億800万
⑥経常収支(ランド)	△1,618億7,400万	△970億6,200万	△740億5,800万
⑦外貨準備高(米ドル)	305億8,350万	352億3,740万	381億7,500万
⑧対外債務残高(米ドル)	728億6,900万	785億6,100万	938億9,900万※
⑨為替レート(1米ドルにつき, ランド, 期中平均)	8.26	8.47	7.32

[注] ※9月末時点
[出所] ①④:南アフリカ統計局, ②南アフリカ政府, ③⑦⑨:IMF, ⑤⑥⑧:南アフリカ準備銀行

2010年の南アフリカ共和国の実質GDP成長率は2.8%で、2009年のマイナス成長から回復した。貿易では、資源を中心とする輸出が新興国の需要増を背景に拡大し、また、家計消費支出の拡大により乗用車や携帯電話などの消費財の輸入が増加した。対内直接投資は低調だったが、日本企業による南アフリカの塗装大手買収などの動きがみられた。

■家計消費の伸びを背景にプラス成長に

2010年の実質GDP成長率は2.8%で、2009年のマイナス1.7%からプラス成長に転じた。家計消費支出は前年比4.4%増と回復し、なかでも耐久消費財支出は24.2%増と大幅に上昇した。一方、総固定資本形成は3.7%減と低下した。製造業の設備稼働率は80.0%と、2009年の78.1%からやや上昇したが、2008年の水準(84.4%)には戻っておらず、製造業を中心に投資が控えられた結果、民間部門の総固定資本形成は4.4%減となった。公営企業部門は、新規発電所建設やパイプライン建設などにより3.5%増となった。

産業別では、前年落ち込んだ製造業や鉱業で回復がみられた。製造業(5.0%増)では、世界需要の回復を反映して自動車部門の成長率が上昇したほか、食品・飲料、卑金属、鉄鋼部門でも回復がみられた。鉱業(5.8%増)では、プラチナや石炭を中心に増産がみられた。金利の低下などにより消費意欲に回復がみられ、卸・小売・飲食業は2.2%増となった。

■新興国向けが資源中心にシェア拡大

南アフリカ歳入庁によると2010年の貿易(通関ベース)

表1 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出(FOB)				輸入(FOB)			
	2009年		2010年		2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	47,836.7	47,377.7	8.1	△1.0	36,396.3	35,357.6	6.1	△2.9
鉱物性生産品	102,618.8	126,565.1	21.6	23.3	118,519.7	117,139.4	20.2	△1.2
化学品	29,360.9	31,123.3	5.3	6.0	50,595.3	56,157.0	9.7	11.0
貴石・貴金属など	129,414.2	152,426.0	26.0	17.8	4,956.6	6,037.2	1.0	21.8
卑金属および同製品	74,135.5	92,142.5	15.7	24.3	23,602.8	27,521.2	4.7	16.6
一般機械・電気機械	44,339.0	47,710.5	8.1	7.6	142,061.2	149,197.3	25.7	5.0
輸送機器	45,894.7	50,491.6	8.6	10.0	48,479.9	60,517.4	10.4	24.8
自動車国内生産のための部品	-	-	-	-	29,462.4	37,939.5	6.5	28.8
合計(その他含む)	511,607.4	587,291.5	100.0	14.8	542,090.4	581,006.2	100.0	7.2

[出所] 表2とも、南ア歳入庁。

は、輸出が前年比14.8%増の5,872億9,150万ランド、輸入は7.2%増の5,810億620万ランドとなった。貿易収支は62億8,530万ランドの黒字となった。

輸出を品目別にみると、貴石・貴金属などが前年比17.8%増となり、全体の約4分の1を占めた。そのうち自動車排ガス浄化触媒などとしても使われるプラチナは、数量ベースで9.6%減少したが、金額ベースでは20.1%増加した。また、金は18.0%増加した。鉱物性生産品(23.3%増)では、石炭(12.7%増)、鉄鉱石(49.5%増)がともに増加した。卑金属および同製品(24.3%増)では、フェロクロム、フェロマンガ、フェロバナジウムが金額、数量ともに増加した。輸送機器(10.0%増)では、世界的な自動車需要の回復に伴い、乗用車が16.5%増、貨物自動車が18.7%増、自動車部品が4.6%増となった。南アフリカ自動車製造者協会(Naamsa)によると、2010年の新車乗用車輸出台数は41.3%増の18万1,654台だった。一般機械・電気機械(7.6%増)では、触媒を含む排ガス用の清浄機(15.6%増)や半導体デバイス(6.0%増)が増加した。

国・地域別では、2009年に首位となった中国のシェアがさらに拡大したほか、インドも順位を上げるなど新興国の

表2 南アフリカ共和国の主要国別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド,%)

	輸出(FOB)					輸入(FOB)			
	2009年		2010年			2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	47,721.9	59,326.1	10.1	24.3	中国	70,818.2	80,872.4	13.9	14.2
米国	41,468.2	51,691.0	8.8	24.7	ドイツ	63,244.3	66,114.1	11.4	4.5
日本	34,474.8	46,870.8	8.0	36.0	米国	41,543.7	41,902.5	7.2	0.9
ドイツ	31,464.7	42,673.2	7.3	35.6	日本	26,312.5	31,019.2	5.3	17.9
英国	25,265.4	26,991.3	4.6	6.8	サウジアラビア	27,250.9	23,695.3	4.1	△ 13.0
インド	17,402.3	21,742.1	3.7	24.9	イラン	22,109.5	23,004.1	4.0	4.0
スイス	21,505.8	17,749.7	3.0	△ 17.5	英国	21,431.7	21,978.6	3.8	2.6
オランダ	17,508.1	16,950.8	2.9	△ 3.2	インド	15,408.0	20,549.1	3.5	33.4
ジンバブエ	13,533.4	15,698.3	2.7	16.0	フランス	16,931.6	17,033.5	2.9	0.6
モザンビーク	13,521.5	13,781.9	2.4	1.9	ナイジェリア	15,641.7	16,079.9	2.8	2.8
ベルギー	10,791.4	13,138.8	2.2	21.8	イタリア	13,678.0	14,643.7	2.5	7.1
合計(その他含む)	511,607.4	587,291.5	100.0	14.8	合計(その他含む)	542,090.4	581,006.2	100.0	7.2

存在が目立った。従来からの主要相手先であるEU27, 日本, 米国などの先進諸国向けでも回復がみられた。

EU27 向けは 13.2%増で、プラチナを中心とする貴石・貴金属など(25.3%増), 触媒を含む排ガス用の清浄機を中心とする一般機械(11.4%増)のほか、フェロアロイを中心とする鉄鋼(48.3%増)が大幅に増加した。EU27 の中で最大相手国のドイツでは、輸送機器が、乗用車の輸出の伸び(2.1 倍)を反映して 83.7%増と大幅に増加した。フォルクスワーゲンの南アフリカ工場が新型クロスポロの独占生産工場として本格的に生産を開始し、ドイツ向け輸出を増加させたことが要因のひとつだ。また、触媒を含む排ガス用の清浄機(22.2%増), ディーゼルエンジンおよびセミディーゼルエンジンなどの自動車部品を中心とする一般機械(18.6%増)も増加した。英国は、貴石・貴金属など(18.8%増)のうち、プラチナやダイヤモンドが金額ベースでそれぞれ 25.5%, 10.3%増加したものの、数量ベースではそれぞれ 10.8%, 5.5%減少した。

中国向けは前年比 24.3%増でシェアを拡大し、引き続き首位となった。特に、鉄鉱石が 26.0%増と大幅な伸びを示し、南アフリカの鉄鉱石輸出のうち中国向けが占める割合は 64.3%にも上った。また、鉱物性生産品では、石炭(約 9.2 倍)が大幅に増加した。一方、フェロアロイ(0.1%減), ステンレス鋼のフラットロール製品(77.5%減)を中心とする鉄鋼は前年比 18.4%減だった。

米国は 24.7%増で、前年同様、輸出相手国として中国に次ぐ 2 位だった。貴石・貴金属など(54.6%増), および鉄鋼(2.0 倍)が増加した一方、乗用車は 0.8%減とほぼ横ばいだった。3 位の日本向けは 2009 年の輸出額が激減したことによる反動で、36.0%増となった。

インドは 24.9%増加し、輸出相手国 6 位に浮上した。特に石炭は、EU 向けの輸出が環境規制によって減少するなか、インド向けが拡大した。

サブサハラ・アフリカ(以下、サブサハラ)向けは、1.9%増となった。域内の最大輸出相手国であるジンバブエは 16.0%増で、ブルドーザーや液体ポンプ、コンピュータな

どの一般機械(38.8%増)で増加がみられた。域内 2 位のモザンビークは 1.9%増ではほぼ横ばいで推移し、3 位のザンビアは、一般機械や貨物自動車伸び 7.0%増となった。ケニアは 22.2%減少した。なかでもメイズ(とうもろこしの一種)が 85.0%減少したが、これは 2009 年に、ケニアでの天候不順による穀物類の不作を補うため、南アフリカのメイズ(とうもろこしの一種)の輸出が大幅に増加した反動による。

■国内需要回復で乗用車輸入が拡大

輸入を品目別にみると、携帯電話などの電話機(19.4%増), 自動データ処理機(16.5%増)などの通信機器, 印刷機(12.5%増)のほか、発電設備用の蒸気タービン(90.2%増)は大型の新規火力発電所の建設に伴い高い伸びを示し、一般機械・電気機械は全体で 5.0%増となった。鉱物性生産品のうち、原油は数量ベースでは 23.1%減の大幅減となったものの、価格の上昇により金額ベースでは 6.5%減にとどまった。また、2010 年の国内新車販売台数が前年比 24.7%増の 49 万 2,907 台と国内需要が回復したことにより、乗用車(49.6%増), 貨物自動車(71.4%増)が大幅増となった。排気量 1000~1500cc クラス(ガソリンエンジン)の乗用車は 92.9%増となり、国別にみるとインド(55.6%増), 日本(2.4 倍), 韓国(47.9%増)からの輸入が軒並み大幅増となった。

国・地域別にみると、2009 年に続き相手国 1 位となった中国(14.2%増)をはじめ、日本(17.9%増), インド(33.4%増)などの東アジア諸国が大幅に増加, EU 27(7.6%増), 米国(0.9%増), サブサハラ(4.7%増)は 1 ケタの増加だった。

EU27 では、主要品目の一般機械が 5.1%減少したものの、輸送機器(18.4%増)や自動車部品(35.1%増)が増加した。EU27 の中で最大の輸入相手国であるドイツは、南アフリカの輸入全体の 11.4%を占め、2009 年に続き中国に次ぐ 2 位の輸入相手国となった。ドイツからは自動車部品(30.5%増)や輸送機器(4.3%増)が増加した。輸送

機器の詳細をみると、乗用車(9.6%増)や貨物トラック(73.9%増)は増加したものの、トラクター(43.9%減)は減少した。一般機械(10.1%減)では、飲食料品の製造業用機械(59.8%減)が減少した。

アジアでは、中国が携帯電話を中心とする電話機(16.7%増)、自動データ処理機(24.8%増)、履物(14.5%増)を中心に増加したほか、日本は輸送機器(26.3%増)、インドは軽質油(52.0%増)などの品目が増加した。

3位の米国では、携帯電話を中心とする電話機(12.8%減)、建設機械の部分品(20.4%減)、自走式ブルドーザー(36.5%減)などが落ち込んだ一方で、乗用車(2.2倍)が大幅増となった。

中東では、産油国のサウジアラビア(13.0%減)が減少したほか、イラン(4.0%増)は微増となった。サブサハラでは、ナイジェリア、アンゴラからの原油輸入が増加し、それぞれ2.8%、25.2%増加した。

■対内直接投資は低調、対外直接投資はガス開発で大型案件

南アフリカ準備銀行によると、2010年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は、前年比75.0%減の113億7,000万ランドで、世界的な景気減速の影響で減少した2009年からさらに落ち込んだ。

2010年は大型の投資案件はみられなかったものの、新興国による投資が目立った。12月には中国企業の金川集団と中国アフリカ開発基金(CAD Fund)が、プラチナ鉱山ウエシズウェの株式45%の買収を発表した(16億6,214万ランド、実行は2011年)。これは中国企業の南アフリカのプラチナ鉱山への投資として初めての案件だった。インドのJSW エネルギーは4月、ロイヤルバフォケンキャピタルが保有する炭鉱を買収した(1億6,069万ランド)。JSW エネルギーはインド国内での石炭需要の拡大を受け、炭鉱の買収に積極的で、隣国ボツワナでも11月に探鉱権益を買収する動きがみられた。ブラジルのソロテカ・インドゥストリアリサソン・デ・マデイラスは12月、住宅用家具メーカーのウィリアムテルの合板工場を買収した(1,153万ランド)。先進国企業では米ウォルマートが11年5月、近年拡大する南アフリカおよび周辺諸国の消費市場を狙い、地場小売大手マスマートの株式51%取得を発表した。

表3 南アフリカ共和国の対内・対外直接投資の推移

(単位: 100万ランド)

	ネット、フロー(国際収支ベース)			残高
	2008年	2009年	2010年	2009年末
対内直接投資額	74,403	45,465	11,370	866,664
対外直接投資額	△ 25,888	9,757	3,297	535,659

〔出所〕南アフリカ準備銀行「四季報」2011年3月号。

最新の対内直接投資残高(2009年末時点)は、8,666億6,400万ランド(前年末比37.0%増)だった。国別では、英国(構成比54%)が36.7%増加した(約4,680億ランド)。次いで、オランダが約2.8倍(約914億ランド)、ドイツが23.7%増(約581億ランド)、米国が18.3%増(約558億ランド)、中国が27.0%増(約340億ランド)だった。分野別では、鉱業(33.4%)が48.4%増(約2,898億ランド)、製造業(27.9%)が18.3%増(約2,422億ランド)と増加したほか、金融・保険・不動産などが28.8%増(約2,350億ランド)、輸送・倉庫・通信は約4.2倍(約649億ランド)と大幅に増加した。

一方、南アフリカ企業による2010年の対外直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比66.2%減の32億9,700万ランドとなった。鉱山分野では2010年12月、資源化学大手サソルが、カナダのタリスマンが持つシェールガス田開発権益の50%を取得した(約75億ランド)。同社がシェールガス開発に投資するのは初めてで、開発技術やノウハウの蓄積を狙う一方、タリスマンに対してはサソルが先行するGTL技術の提供で合意した。製薬分野では8月、アスペンによる豪州シグマの製薬部門買収があった(約61億ランド)。

金融・不動産分野では、5月に、保険大手ディスカバリーが英国市場でのシェア拡大を狙い、英スタンダードライフ・ヘルスケアを買収すると発表した(約16億ランド)。投資銀行インベステックは6月、英投資会社レンズバーグ・シェパーズの株式53%を取得し(25億ランド)、100%子会社とした。9月には電子決済システムの開発会社ネット1が、韓国の決済代行会社ケイエス・ネットの株式98.73%を取得した(約17億ランド)。通信・コミュニケーション分野では、8月に、メディア企業ナスパーズが世界最大級の無料広告サイトを運営する米OLXの株式68%を取得した(約11億ランド)。

2009年末の対外直接投資残高は5,356億5,900万ランド(前年末比15.7%増)だった。地域別では、欧州(構成比41.6%)が12.2%減(2,228億1,400万ランド)となった。近年増加基調にあるアフリカ(21.6%)は14.7%増(1,156億8,700万ランド)と引き続き増加した。

■日本企業による地場企業買収が活発に

日本の通関統計をドル換算すると、2010年の日本の南アフリカへの輸出は前年比46.2%増の38億2,000万ドル、輸入は45.3%増の72億4,600万ドルで、2009年に大きく落ち込んだ反動で、輸出入ともに大幅に増加した。

日本から南アフリカ向けの輸出をみると、輸送機器が54.5%増となり全体の約半分を占めた。うち乗用車(55.0%増)では、排気量1000~1500ccクラス(ガソリン

表 4 日本の対南アフリカ共和国主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100 万ドル, %)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2009 年		2010 年			2009 年		2010 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
工業製品	2,534	3,731	97.7	47.2	食料品, 動植物生産品	190	217	3.0	13.7
化学品	94	118	3.1	26.0	原料品	1,490	1,998	27.6	34.1
機械機器	2,165	3,256	85.2	50.4	金属原料	1,157	1,634	22.6	41.2
一般機械	622	923	24.2	48.3	鉄鉱	459	785	10.8	71.0
車両用ガソリンエンジン(1000cc超)	212	162	4.2	△23.5	フェロクロム(炭素含有量 4%超)	338	419	5.8	24.0
車両用ディーゼルエンジン	86	241	6.3	178.9	マンガン鉱・鉄マンガン鉱(含む精鉱)	203	207	2.9	2.3
電気機械	198	270	7.1	36.4	木材, コルク	282	299	4.1	6.1
輸送機器	1,286	1,986	52.0	54.5	工業製品	3,231	4,972	68.6	53.9
乗用車	524	812	21.3	55.0	化学品	97	137	1.9	41.3
貨物自動車	278	544	14.2	95.4	機械機器	326	489	6.7	50.0
精密機器	59	77	2.0	31.5	輸送機器	276	428	5.9	54.9
金属品	95	130	3.4	36.9	金属品	2,782	4,331	59.8	55.7
					非鉄金属	2,775	4,327	59.7	55.9
合計	2,613	3,820	100.0	46.2	合計	4,989	7,246	100.0	45.3

〔出所〕財務省「貿易統計(通関ベース)」から作成。

エンジン)が 68.5%増となったほか、排気量 1500～3000cc クラス(54.4%増)や排気量 3000cc 超(63.8%増)でも増加がみられた。一般機械(48.3%増)では、車両用ディーゼルエンジン(2.8 倍)やメカニカル・ショベルなど(3.0 倍)が大幅に増加したものの、車両用ガソリンエンジン 1000cc 超は 23.5%減少した。

南アフリカからの輸入をみると、プラチナ(39.6%増)、パラジウム(82.0%増)、ロジウム(47.5%増)が増加、非鉄金属全体で 55.9%増となり、輸入総額の約 6 割を占めた。金属原料も鉄鉱(71.0%増)やフェロクロム(24.0%増)の増加に伴い 41.2%増加した。輸送機器のうち乗用車では、フォルクスワーゲンの新型ポロを中心とする排気量 1000～1500cc クラス(ガソリンエンジン)がほぼ 3 倍に増加した一方、BMW3 シリーズなどの排気量 1500～3000cc クラス(ガソリンエンジン)は 4.7%増と微増だった。

日本の財務省統計によると、2010 年の南アフリカへの対外直接投資額(国際収支ベース, ネット, フロー)は 93 億円だった。鉄・非鉄・金属(5 億円)などを含む製造業は 20 億円、卸・小売業(36 億円)などを含む非製造業は 113 億円だった。

大型の新規投資案件では、関西ペイントが第 3 四半期(7～9 月)に、塗装大手フリーワールド・コーティングスの株式 27.6%を買収。12 月には発行済み全株式の追加取得を申し込み、2011 年 4 月に買収手続きを完了した。また、NTT は 2010 年 10 月、南アフリカに本拠を置く英情報システム大手ディメンションデータが発行する全株式を現金で取得する公開買い付け(TOB)を成立させた。ディメンションデータはロンドン証券取引所に上場しているため、南アフリカの国際収支上は計上されないが、約 2,860 億円に上る大型案件だった。NTT は、同社が持つアフリカ、中東におけるネットワークを活かし、新興国でのシェア拡大を狙う。11 年 6 月には、伊藤忠商事が白金族・ニッケル

探鉱開発を進めるビールズ社の株式取得(224 億円)を発表した。

自動車分野では、トヨタ現地法人が 2011 年 1 月、ヨハネスブルクに部品供給センター開設すると発表した(約 43 億 3,000 万円)。国内市場のほか、欧州やアフリカなどの 57 市場向けに部品を供給する予定だ。自動車の販売では、2010 年 10 月に豊田通商が、パローワールドサウスアフリカから、南アフリカおよび周辺 6 ヶ国向けのスバル車販売代理店であるスバルサザンアフリカ社の全株式を買取り、完全子会社化した(金額非公開)。また、VT ホールディングスの子会社で中古車輸出を手がけるトラストは、2011 年 2 月、南アフリカの自動車販売会社ウェスタン・ブリーズ・トレーディング 23(新名称:トラスト・アブソルート・オート)を子会社化(約 1,778 万円)、プジョーやフィアットの販売を開始した。同社は同年 3 月、ソージツ・アブソルト・オートにも出資し(約 1,334 万円)、スズキの販売事業に参入した。新車市場への参入で、既存の中古車ビジネスとのシナジーを追求する。

自動車以外にも、南アフリカを販売拠点とした輸出が活発化している。10 月には住友ゴム工業の子会社 SRI スポーツが南アフリカでのゴルフ用品の販売強化のため、ゴルフトレンズの発行済み株式 51%を取得し子会社化した(金額非公開)。また同月には資生堂がスキンケア、メーキャップ用品などの販売を、現地代理店を通じて開始すると発表した。サービス分野でも、2010 年 3 月に三井住友銀行がドバイ支店ヨハネスブルグ出張所を開設、英国パークレイズグループの南アフリカ子会社であるアブサ銀行と業務提携についても基本合意した。同月には、KDDI グループの欧州現地法人テレハウスヨーロッパが、ヨハネスブルクにデータセンターを開設し、サービス提供を開始した。